

第 6 回 杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会会議録（要旨）

会 議 名		第 6 回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会
日 時		令和 7 年 2 月 28 日（金）午後 2 時 00 分～午後 3 時 39 分
場 所		杉並区役所中棟 4 階 第 2 委員会室
出席者	委 員	学識経験者：深尾 精一 高口 洋人 阿佐谷地区町会連合会の代表：田中 昭一 杉並第一小学校通学区域内に存する町会の代表： 佐藤 文夫 徳田 紀美子 杉並第一小学校学校運営協議会、学校支援本部の代表： 伴野 博美 岡田 円治 竹越 不可止 松尾 純一 杉並第一小学校震災救援所の代表：近藤 浩 阿佐谷地域の商店街関係者の代表：細田 宗宏 杉並第一小学校 PTA の代表：長谷川 篤男 杉並第一小学校校長：山口 祐美子 杉並第一小学校副校長：杉田 英昭 小島 昭博 懇談会委員 15 名（欠席 5 名）
	事務局	学校整備・支援担当部長：高山 靖 まちづくり担当部長：吉見 紗 学校整備課長：安川 卓弘 学校整備担当課長：鈴木 伸建 拠点整備担当課長：郡司 洋介 学校支援課長：中曽根 聡 防災課長：手塚 剛 学童クラブ整備担当課長：千葉 俊明 教育施設計画推進担当係長：岡本 智彦 株式会社日総建：櫻井 成行
傍 聴 者		10 名
次 第		1 開会 2 校舎配置プランの検討 3 校内構成と諸室について 4 閉会
資 料		資料 1 前回の懇談会等の振り返り 資料 2 校舎配置案ごとの特徴比較表 資料 3 冬至日による日影比較図 資料 4 校舎配置案ごとの平面図・断面図 参考資料 第 6 回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会 席次表 鷺の杜小学校の紹介 等

進行役	皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。 ただいまから、第6回杉並区立杉並第一小学校改築検討懇談会を開会いたします。 次第に沿って進めてまいります。 次第の2、「校舎配置プランの検討」を事務局からお願いします。
学校整備課長	それでは、資料1を御覧ください。前回ご欠席の方もいらっしゃいましたので、簡単に振り返りをさせていただければと思います。 まず1点目としまして、プロポーザル選定での企画提案に関する主な意見等でございます。こちらにつきましては、あくまで設計者の選定の過程での企画提案ですので、これで決まったということではなかったわけですが、皆さんと一緒にまとめてきた改築基本方針をどのように具体化できるかという視点で、ご提案いただいて、たたき台としてお示ししてご意見を伺ったものでございます。 主な意見をご紹介します。 まず、水害対策を含めて地盤の高さをどうしていくのかというご質問。 それから、環境配慮ですとか、地域連携も視野に入れた校舎の提案はよかった。その上で、子どもたちの学び舎であるということ、教職員の使いやすさを最も重視すべきではないかというご意見。 それから、雨水流出抑制対策についてのご質問については、まだ定量的な設計はこれからですという回答があったかと思います。 それから、教室前のスペースの提案もあるということで、こちらの使い方のご質問についても、いずれ具体的なご説明をさせていただければと思っております。 それから、土壌汚染については学校建設以前のことかと思えますけれども、そういったご心配に関すること。 それから、防災の関係ですけれども、動線に関するご意見ですとか、あと、仮に人工芝にするとしても、炊き出し場所への配慮が必要だといったご意見ですとか、中野区の小学校の事例も少し知りたいというご意見もございました。こちらについては、今日、時間を取って具体的にご紹介はできないのですが、資料を配付しておりますので、参考にしていただければと思います。またリクエストなどがあれば、改めて時間を取れば取りたいと思ってございます。 それから、人工芝の関係についてはご意見が様々ございまして、高円

寺学園で人工芝を入れておりますが、非常にいいのではないかというご意見もありましたが、一方で、先ほどの炊き出しですとか、そういったことで課題があるのではないかというご意見を頂いています。こちらについても校舎の配置の後になるかと思えますけれども、また別途検討してまいりたいと思います。

それから、校舎の中の配置ですけれども、体育館が2階ということで、楽器の搬出入ですとか、エレベーターとの位置関係を含めて、少し心配だというご意見も頂きました。

それから、学童クラブは、今回せっかく学校と併設するので、併設のメリットが出ればいいのではないかといったご意見。

それから、校庭については日当たりを重視したいといったご意見。

それから、外構の関係ですけれども、歩道状空地ですとか、沿道緑化、レインビオトープの提案もありましたが、そういったところをうまくしつらえて、いい空間ができればいいのではないか。

また、学校開放の管理面で、事務室ですとか、そういった考慮も必要ではないかというご意見がございました。

それから、裏面を御覧いただければと思います。

裏面の2点目としましては、校舎配置の比較検討についてでございます。こちらは前回十分な時間が取れませんでしたので、さわりのご紹介と少しだけの質疑ということで終わりましたけれども、ご意見としては日当たりを重視したいですとか、ここには書いてありませんけれども、A案、B案のどちらかかと思うけれども、よく比較検討して頭を整理していきたいというご意見を頂いたところです。

最後に、3点目ですけれども、あさがやまちづくりセッションを1月31日と2月1日の2日間、この杉一小の改築につきまして、資料としては前回の懇談会でお示しした内容とおおよそ同じでございまして、地域あるいは保護者の方々などからご意見を頂いたところです。

ここでは、今日の主なテーマでございます校舎配置に関する意見を記載してございます。今回、近隣にお住まいの方なども来られていたと思いますので、そういった校舎配置についてのご意見が非常に多かったと思います。

A案は南西側の校舎配置でございますが、そういったものもいいですとか、反対のご意見もありました。

また、共通的に複数あったものとしては、屋上のプールなどについて病院からの視線には配慮が必要ではないかというご意見も頂いたとこ

	ろです。 資料１の説明は以上でございます。
進行役	ありがとうございました。 それでは、委員の皆様から今説明いただきました内容につきましてご質問やご意見を頂きます。ご質問、ご意見がある方は挙手をお願いいたします。 委員、どうぞ。お手元のスイッチボタンを押してください。
委員	人工芝の件ですけれども、これは決定ということによろしいのでしょうか。前回、学校整備課長さんのほうで、まだ難燃性ということもあってというのもあったのですけれども、賛成、反対ではなくて、一応確認です。いつ頃決定されるのかも含めて。
学校整備課長	様々、両面のご意見を頂いたかと思いますので、まだ決定ということは考えておりません。そのほかにも私から申し上げた、例えばマイクロプラスチックだとか、夏すごく暑くなりやすいとか、そういった製品上のこともあり、各社メーカーさんがそういった改善には取り組んでいると聞いておりますので、そういった動向も見ながら、どういった形がいいかということで。使い方には様々特性がありますので、そういったところは皆さんのご意見も伺いながら、どういった形がいいかというのは決着点を見出していきたいなと思っています。また追ってご相談させていただきたいと思っています。
進行役	ほか、ございませんか。 委員、どうぞ。
委員	資料のことですけれども、AかBに決まるだろうという、そんなことは全然決めていないので、出すのであれば取りあえずC、Dのプランも出していただかないと、これはどなたが決めたか知りませんけれども、AかBだろうというのはちょっと違うのではないかなと思いました。そこに何か感じるものがあるので、こういうときにはきちんと提案されたA、B、C、Dを出していただいた上でのメリットやデメリットを話していくべきだと思います。頭からAとBにしましたというのは、前回の会議のときには決まっていません。以上です。
学校整備課長	今回もA、B、C、Dを含めて比較表を作ってございますので、またご意見を頂ければと思います。
進行役	ほかにごございませんか。 委員、どうぞ。
委員	そもそも論であるので、後で議論でもいいのですけれども、前回ある

	委員の方から、校舎をどう配置するかの前に、この校舎を建てる土地、何メートルかさ上げするという議論をしていたのではなかったでしょうかという意見もありました。かさ上げするかどうか、いずれにしても、この土地は斜面で傾斜している土地なので、グラウンドも含めて水平な土地にしなければならない。 水平にすると考えると、道路面から高いところを削って低くするという選択肢はあまり考えられない、一番高いところに合わせて低いところは土地をかさ上げして、水平になるように造るということだと思うのですが、それについて前回もあまりはっきりしたお答え、お返事がなくて、前回を受けて、今回そういう部分も含めてたたき台として出てくるのかな、考え方として出てくるのかなと思いましたけれども、今回は建物の場所をどこに置くかということをやっているようにしているので、今聞いているのです。 もう1つ、私、前回質問したのは、そもそもこの土地に移転していくときには、この土地は大変低い土地であると。だから、水が出た歴史も過去にあって、移転先として相応しいのかという意見も随分ありました。そもそも病院跡地で、地中に何が埋まっているのか分からないという指摘も何回もありました。 この後、委員からも出るかもしれませんが、安全な土地としてきちっと河北病院から受渡しを受けるというのが前提の1ですし、前提の2は、ここは斜面でもあるし、低地で水が出る場所でもあるので、平らな水はけのよい土地にする。その上に建物を建てるのだということだと思うのです。 前回、雨水貯水槽のポンチ絵もありましたけれども、ジャストアイデアの段階で、特に深く考えているわけではありませんみたいなご返事で、今回そういう部分も含めてきちっとご説明が出てくるのかと思いましたけれども、出てきていない。水はけのよい、平らな土地を造るのが建物を建てる上でのまず大前提だと思っています。そのことについて、この後のご説明でも結構ですけれども、重要な点だなと思いますので、はっきりさせていくべきだと考えています。以上です。
学校整備課長	ありがとうございます。今回、資料4で、断面や地盤の高さについて、一番低いところからどれくらい上がっているかとか、そういう図面も用意しておりますので、そういったところでご説明させていただければと思います。
進行役	後ほど説明があるということです。

	ほかにございますか。よろしいですか。 では、進めてまいります。 事務局からほかの資料の説明をお願いいたします。
日総建	前回、お話をいろいろお伺いさせていただきまして、ありがとうございました。 それから、ここの回に至るまで、杉並第一小学校に2回ほどお邪魔して、朝先生からお昼の様子、朝先生が終わった後に皆さんにお集まりいただいて、お子さんの様子について活発に議論されているところですか、日を改めて放課後の子どもたちの居場所も見せていただきました。チャイムが鳴ると、グラウンドにもものすごい勢いで子どもが飛び出ていく様子を見せていただいて、今回の改築基本方針にありました「子どもたちが輝く」というのを私は非常に実感しました。ありがとうございました。 早速ですけれども、皆さんのお手元の資料2の説明をさせていただきたいと思います。 今回、前回配付した校舎配置比較検討資料をブラッシュアップしてお配りしています。配置の並びは前回と同じで、図の一部修正と、日影を見やすいようにグレーのトーンで塗ってございます。 B案は、検討を進めた結果、建物の高さや配置の調整が必要になりました。建物の位置を図の下に若干移動しています。結果、校庭面積も、前回だとA案より少し大きかったのですが、A案と同じ3,000平米程度になっております。日影は冬至の13時頃の状態をグレートーンで表現しています。 図の下の方の表の部分に、テキストをもう1回改めて読み直して精査した結果、修正を行った部分を赤字で表現しています。 表の見方としては、図の左上が北、右下が南になります。校舎の青色が普通教室で、オレンジ色が体育館です。 AからD案、各案が上段に並んでおりまして、左のほうに上から項目を書いているのですが、まず、一番上段が校舎になっていて、次が校庭、近隣住居への影響、そして水害対策の項目を出しまして、それにそれぞれ細目を立ててコメントを表現しています。 非常にたくさんいろいろ書いてあるのですが、ポイントを3つぐらいに絞ってご説明します。 1つ目は、今回の敷地は上下に長く、左右が狭いという敷地上の特性があるので、C、D案はどうしても校庭が狭く、面積も狭いということ

で、運動会などにはちょっと使いづらいなというところが特徴としてあります。一方、A、B案のほうは、校庭の奥行きとまとまった感もあって、面積も3,000平米取れるというよさがあります。

次に、A、B案の違いに着目してみますと、敷地の上下どちらかに校庭と校舎を置くという大きな違いがあります。その中で、2つ目として、校庭に落ちる日影の部分を見ていただきたいのですが、お子さんが校庭で遊ぶ大事な場所ですので、ちょうど午後1時ぐらい、お昼ぐらいの日影をこういった形で出しています。A案がおおよそ校庭の半分程度、B案が1時で7割弱、日がかかっているという絵になっております。

3つ目、次に校舎に着目して見てみますと、A案はプール以外の学校機能が4層でまとまっているということ、B案は5層構成というのが特徴になって、結果として面積が若干増えております。

前回、校庭の日影についてもいろいろとご意見を頂きましたので、次のページに2時間ごとにこま割りした日影図を用意しましたので、ちょっと見ていただきたいと思います。

資料3の日影図です。図の見方として、緑で塗ってある部分が校庭、青色が校舎で、赤色が病院の建物を表現しています。授業の時間帯のうち、9時から2時間ピッチで、左から9時、11時、午後1時、3時の4つに割って、AとBをそれぞれ並列して表現しています。

A、Bともに午前中の校庭の日当りは良好で、見ていただくと、影が落ちていないのが午前中、A、Bとも同じで、午後1時のところで、病院の影、校舎の影が出てくるところで差が出るということですね。先ほど言いましたけれども、Aで50%ぐらい、Bで7割弱ぐらい、3時ぐらいになると両方とも校庭に日が落ちるという特徴があります。

この図は、最も影が伸びる冬至で作成していますので、条件のいい夏は校庭に日が当たるという良好な状況が確保できていると確認しております。

最後に、次のページ、校舎の構成についてちょっとご説明したいので、めくっていただきたいのですが、こちらが資料4になります。

左がA案で、校舎を病院側、図の下側に配置する案で、それを上下反転して、右側がB案ですが、図の上側に校舎を配置した案になります。

図の下側に凡例があるのでありますが、例えばA案の3階の普通教室が青色、特別教室が緑色、体育館が濃いオレンジ色、1階の管理諸室が赤紫色で、学童が黄色に塗ってあります。それをB案のほうでも同じよ

	うにしています。なので、諸室の基本単位は同じにして、平面の中の組み上がりを敷地において変えているという状況で2案つくってございます。 その中で、A案とB案の違いですけれども、A案に比べて、B案が右肩のところが少し斜めに切り上がっている関係で、建物の幅がB案のほうが狭いというところもありまして、中央の共用部がA案よりB案のほうが少し幅が狭まっている分、ちょっと手狭な感じになっております。 先ほど敷地の高低差の話もあったので、基本情報として一度整理してご説明させていただきます。例えばA案で説明しますと、この敷地の右上のところをプラマイゼロにすると、左下のところ、大通りのほうですけれども、こっちがプラス1.4メートル。こう下っていきまして、ここがプラス0.3メートル、こちらがプラス0.7メートルということで、左下から右上にかけて下がっていくような土地の性状があります。 次、A案のほうで説明しますけれども、土地の中に傾斜があるので、校庭としてまず平らに作らなければいけないということもありまして、これは断面図ですけれども、校舎の高いほうから真っすぐ入ってきて、校庭の図の上のほう下がっているのもので、そちらに対して校庭を平らにする過程で、今、現状の杉並第一小の校庭みたいに、校舎から1段、2段、3段ぐらい、少し下って校庭のレベルを造って、周りとの高さ調整をするという構成にA案のほうは仮設定しております。 今度、B案のほうです。この図のこちらが北ですけれども、北東と北西の北側のほうに建物を寄せると、建物の形態規制、日影ですとか斜線制限がかかってくる関係で、建物全体を少し下げないとこの敷地には入らないのです。A案のほうが割と自由に高さ関係が調整しやすいのです。なので、法規制の中で建物を収めた結果、5層ですけれども、校庭のほうはプラス1.4メートルと大体同じぐらいで造って、ここの1階F Lが今マイナス0.7ということで、この敷地の一番低いところ、プラマイゼロと言いましたけれども、そこよりも下がってしまうというB案の特徴があります。 というのが今回、A案、B案、両方をざっと検討した結果の大きな特徴になります。以上です。
進行役	今、設計から説明がありました。ここで委員の皆様から、今ご説明いただきました校舎配置の内容にご質問、ご意見をお受けしたいと思えます。また、副校長たちも参加させていただきますので、お願いいたします。

	それでは、ご意見、ご質問がある方、挙手をお願いいたします。 委員。
委員	1つ特徴として、最後のページのところを見て、この間はB案の教室の配置がなかったのですけれども、A案だと吹き抜けだとか光窓が特徴としてはあるのかなと。Bはないという理解でよろしいですか。
日総建	建物の幅が狭まった分、そういうのがなくなっています。1つのフロアに使える床はBのほうが狭いので、その分、上に乗ったり、今言ったものがなくなってくるという傾向があります。
委員	防災としては、特にどの案でも配置はそんなに問題ないかと思いますので。 あと、今日はぜひとも先生方のご意見をお伺いしたいと思っていましたので、よろしくお願いいたします。 以上です。ありがとうございました。
進行役	ほか、ございませんか。 委員、どうぞ。
委員	どの案ということではないのですが、プールが5階にあると思うのです。例えばA案でしたら病院に近いので、前回も議論になっていて、私、前回欠席していたので重複したら申し訳ないのですが、例えばプールを見えなくするような工夫はどの案についてもできるというか、されるということで大丈夫ですか。
日総建	上にテントを張ったりするので、それはどの案においても配慮したいと考えております。
委員	フェンスみたいな。
日総建	そうです。フェンスも含めてです。
委員	ありがとうございます。
進行役	委員、どうぞ。
委員	今の杉一小学校も東側道路、杉一小学校と相沢の森との間の道を通ると、神明宮から駅のほうに向かって歩くと、校庭が目目の辺にあります。世尊院前の交差点から今現在の河北病院に向かって下り坂になっています。 ですから、現在の杉一も東に向かうに従って道路面とは相当な段差があるので、水平にするために多分かなりの盛土したのではないかなと思います。基本的にはグラウンドだけではなくて、建物も斜めに建てるわけではないから、当然、水平のところに建物を建てるということだろうと思いますが、今のご説明資料を見ると、A案でもB案でも、例えば校

	庭の高いほうは 1.4 メートルで、低いほうは 1.2 メートルと書いてあります。50 メートルもあるかないくらいの距離で 20 センチ高さが違うということは、ある意味で結構な斜面でもあると思うのですね。つまり、グラウンドを基本的に水平に造るという思想になっているのか、グラウンドは別に斜めでもいいのだよとそもそも考えているのか、私は水平に造るべきだと当然思っているのですけれども、それをお伺いしたいのです。
日総建	私も水平に造るつもりです。若干雨勾配というか、雨が降った後の水はけをよくするために、気持ち勾配をつけるのですけれども、それは目で見て分かるようなレベルではないので、基本的には切り盛りで平らに造ろうということで設計していきたいと考えております。
委員	それは皆さんの常識だと、50 メートルの距離で 1.4 メートルと 1.2 メートルはほぼ水平だという感覚ですか。それとも、今ここではそう書いてあるけれども、基本的には限りなく水平に近づけたものを造るということですか。はっきり言ってしまうと、斜めのグラウンドでは困るのですよ。ボールを転がしたら、何も触らないのに下に転がっていったようなグラウンドでは困るわけですよ。 雨勾配という言葉も今出ましたけれども、水はけのよい校庭を造るというのはほかにも幾らでもやりようがあると思うのです。この間も雨水槽の話も聞いたのですけれども。 水が出たときも水が出ないようなということですが、水はけのよい校舎並びに校庭、校舎のある場所も含めての土地環境をつくるという大前提で、もしかしたら基礎工事の部分も含めて、それに対応するような工事もしなければならない。そういうこともやりますということなのかどうかがよく分からない。やるのですか、やらないのですか。
学校整備担当 課長	通常ですと、水勾配といいまして、100 分の 1 の勾配でつけることが一般的でございます。今の図面の表示の仕方ですと、パーセンテージ的にかなり急な数値になってございますので、先ほど設計からも説明がありましたけれども、必要な水勾配は取ります。ただ、委員がおっしゃったように、当然、必要以上の水勾配を取るつもりはございませんので、そのレベルに関してはもう一度きちんと精査した上で設定をしていきたいなと考えてございます。
委員	そうしたら、仮に A 案なら A 案として、1.4 メートルと 1.2 メートルと書いてあるのは、現状この高さですという意味で書いてあるのであって、出来上がったときの高さがこうなりますと書いてあるわけではない

	ということでしょうか。
学校整備課長	これは出来上がりのところで、先ほどもありましたけれども、グラウンドは完全に水平には造らなくて、雨だと水がたまってしまうので、大体周りにU字溝があって、真ん中が微妙に上がっているのです。先ほどもありましたけれども、100分の1とか200分の1の角度をつけて、水が流れるようにするのが一般的ですので、今回は東側が……。
委員	そんな100分の1、200分の1の数字ではないではない、ここに書いてあるのは。50メートルで20センチですよ。
学校整備課長	50メートルで20センチですから、0.4%になるのかなと思うのですが、そういった意味では250分の1か、その程度になっていると思いますので、今回は東側が低いということを踏まえてこういった提案があるのかなと思いますけれども。
委員	いや、だから、ちょっとあいまいで、これで造ると言っているのですか。それとも、これは取りあえず書いてあるのであって、それを100分の1にしますよとかいうことなのか、どちらなの？
日総建	先ほど担当課長さんがおっしゃられたとおり、適正な雨勾配で造るつもりなので、ここに1.2と書いてありますけれども、大体平らになるように調整するつもりでございます。なので、これはあくまで素案として、今回、配置の構成をお見せするために書いてあるのですけれども、まず基本は平らにと考えていきたいと思っております。これは、今後詳細に設計していく中で詰めていくものなので、今日のところはまず平らに校庭を造るところでご理解いただければと思っております。
委員	平らなところというのは、さっきも説明があったように、一般的に100分の1ぐらいの勾配をつけるのですという、そういう部分は当然あると思いますよ。だから、それはそれでもいいけれども、100分の1を基準にして造ることを原則として考えていますということなのか、それとも、ここにこう書いているということは、もし私がここで何回も言わなかったらこのままスーッと通っていったら、「いや、お示ししていたでしょう」と。斜面にしたほうが水が流れるから、土を盛るとかいったらそれだけでもお金がかかるから、なるべくお金を安くするためにはこうなっていたほうがいいよとなりかねないですよ。だけれども、利用するほうは平らであることが当然望ましいですよ。
委員	委員は何かちょっと図面を見ていないのではないですか。A案の左のところに、校舎と校庭の間が少し下がっているでしょう。そして、さらに歩道状空地のところでもう一度下がっているでしょう。これは要はフ

	ラットにしているということです。つまり、右上のほうが高いから、低いほうに合わせて段を切って、その間は平らですよ。今言った雨勾配云々というのは単なる校庭の中でのあれで。それから、右側のB案でも、同じように校庭のところを上げているのですよ。要は校舎の部分と校庭の部分はフラットですよ、これは。
委員	委員間で話し合っているんですけど、例えばこのA案のプラス1.4というのが白いところに書いてあるんだとしたら、今委員がおっしゃったとおりですよ。でも、緑のところに書いてあるということは、これはグラウンドですよ。グラウンドの一番南端が1.4で、北端が1.2と書いてあるわけですよ。そういう図ですよ。
学校整備担当 課長	私から説明させていただきます。まず、A案の校庭、緑に塗ってある部分を御覧いただきたいと思います。「校庭」という表記がございまして、まず上側にプラス1.2メートルという表記がございまして、また、「校庭」という表記の下側に1.4メートルという表記がございまして。確かに委員がおっしゃるように、ここで20センチの差があるということとはございまして。 先ほど来、こういう斜めになっている状況でいいのかという問いを受けているわけですが、区としましては、必要最低限の水勾配をつけて、先ほど私が100分の1と申し上げましたが、これから設計を進めていく中で、必要最低限の水勾配をつけることによって、極力、この20センチの差を例えば10センチないしは5センチに変えていくですとか、そういった作業はきちっとやった上で設計を進めてまいりたいと考えてございます。
委員	勾配100分の1の定義を説明いただいたほうがよいと思います。
進行役	ご説明がありますか。私たち、素人です。
委員	素人の私たちに分かりやすいように説明していただかないと。そちらの方たちがご理解いただいても、委員がそれを理解できないのであれば、申し訳ないのですけれども、数字のことなのでご説明いただいたほうがよろしいかと思います。
日総建	100分の1というのは、50メートルでいくと50センチ、500ミリということですね。50メートルだと、5に丸が4つあるので、2つ取って500ミリということになります。それで100分の1です。
委員	陸屋根の勾配だと100分の1だけでも、それだとグラウンドとしてはちょっと急過ぎるからもっと緩くなって、かなり緩くなると両側でこの数値になるという理解だと思います。ここに書いてあるのは。

日総建	今、これは 200 分の 1 ぐらいで書いてあります。
委員	100 メートルはこの縦ですから、500 メートルもなく、多分 30 メートルぐらいかもしれませんけれども。いずれにしても、斜面のグラウンドを造ろうと思っているわけではありませんと、それだけ確認させていただきました。
日総建	ありがとうございます。
進行役	委員、どうぞ。
委員	補足になるかどうか分かりませんが、私たちは飲食店営業の施設を見に行くと、排水勾配をつけるときに 100 分の 1 という言葉を使うことがあるのですね。それは、床面を洗うときに水が簡単に流れるように、端のところにはいわゆる R 勾配をつけなさいというようなことでやっているから、一般的には製造業だとか、排水を多く使うところはそういう勾配をつけます。 こういう学校のグラウンドにそういうのを当てはめるといえるのか、今の技術でいきますと、例えばフラットにして、地盤があまりよくないところではあるけれども、地下浸透式にやっていくと。実は競馬場はすごく水はけがいいのですね。そんなような造り方も取り入れていくという形もしながら、いわゆる実例をつくっていただければいいかなと思うのですね。 今言ったのは、食べ物屋さんの施設の勾配が大体 100 分の 1、R を取って水はけをして、そして U 字溝、L 字溝に流しなさいという指導をしていますから。これはどうしても行政上の話になりますけれども、一般の人からはなかなかそういうのは分かりづらいと思うのです。 ですから、くどいようですがけれども、学校のグラウンドはなるべく傾斜を静めて、いわゆる浸透式になるような、また、人工芝でも浸透式になるようなものをお使いになられるとうまくいくのではないのかなと。 先ほどから言っているとおり、多分素人の方が見たらボールが転がっちゃうよと言いますけれども、申し訳ないけれども、一般の人には分からないでしょうけれども、これはそんなに強くはならないかなとは思いますが。でも、フラットというのが基本ですから、今言われたご意見を重々取り入れて、設計される方にお願ひできればなという、ちょっとした補足ですがけれども、よろしくお願ひしたいと思います。
日総建	アドバイスありがとうございます。しっかりアイデアを受けて検討させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。
進行役	では、ほかにございませんか。

	委員、どうぞ。
委員	話が戻ってしまうかもしれませんが、区の方にお聞きしたいのですけれども、例えばA案でもB案でも、全体敷地の右隅のところが欠けていますよね。これは、現状どうなって、どういう見込みになるのか。もしこれがちゃんとした形になれば、随分設計が楽になるのではないかと思いますので、その辺は現状どうなっているのでしょうか。
学校整備課長	懇談会の最初の頃にもご説明したかと思いますが、端のところは既にお住まいの方がいらっしゃいますので、そこは学校敷地にはならないという状況でございます。この図で言うと、残っていたところについては少し上側のほうに移っていただく形になりましたので、そういった意味では多少形はよくなっているという、これが今の最終形でございますので、そこからさらにというのは今のところ予定はない状況です。
進行役	ほかにございせんか。私も聞いてみてもいいですか。 A案、B案を見比べさせていただいて、B案のほうはお教室の前がワークスペースということで十分なスペースを確保していただいているのですが、A案のほうですと、吹き抜けや光を取り入れる場所なのでしょうか、こういうものが入っています。それがあると、ワークスペースが狭くなると考えてよろしいのでしょうか。これを入れることによってワークスペースが狭くなってもメリットがあるということがあったら教えてください。
日総建	今の話はA案についてということですね。Bのほうだと床がきちんと取れているけれども、Aは吹き抜けとかがあるからということですね。 これは、A案で平面だけ拡大した図になります。 まず、光庭に関しては、今回、建物の奥行きが深いということで、風が抜けたり、光が入ったりといった効果があるということなのですから、その光庭の前にある床、取りあえず今吹き抜けにしてあるのですけれども、そこに関しては、普通教室との関係でどういうふうなワークスペースを造るかというのは先生方のご意見をよく聞かせていただいて、有意義な床を造っていきたいと思っています。 このときはプロポーザルのご提案でしたので、3層吹き抜けを造ることで学年間交流みたいなコトがあるかなと思ったのと、あとは重力換気です。風が水平に入ってきて、縦に抜けていくとか、上部の風が強く吹いたときに引っ張って風が抜けていくとか、そういったメリットでこのときはご提案させていただきました。

進行役	ありがとうございます。風が抜けるということは、子どもたちの生活音ですとか、学習の音も抜けていくと感じたのですけれども、そちらは大丈夫なのでしょうか。
日総建	今までやっていて、音が抜けていくと言われたのは初めてですけれども、その辺、気にされるのであれば、どういう造り方がいいのかというのはまた聞かせていただいて、どちらにでもできるとは思っております。
進行役	ありがとうございます。 委員、どうぞ。
委員	今、第2の校舎配置プランというのを話しているのですよね。今回で配置を決めてしまうということですか。今日で配置を決めるのですか。配置が決まらなないと建物の設計が進んでいかないではないですか。今日で配置を決めてしまうのでしょうか。
学校整備課長	必ずしも今日で決めるということではございません。ただ、絞り込んでいたり、そういったことは今後必要かなと思います。今日、比較表も作っておりますので、どれがいいとか、そういったところもご意見を頂いて、ある程度絞り込んでいければありがたいなとは思っております。
委員	分かりました。それで、今、AとBの冬至の日の日当たりの比較表を頂戴しているのですが、この間日総建さんが来てお分かりのように、両方とも午後1時から暗くなっているわけです。お分かりでしょう。午後1時前というのは、大体各クラス、体育で使うのは1時間ぐらいしかありませんから、教室に入っていることが多いのですよ。この1時以降が子どもたちが運動場で活動する時間ですよね。これが両方とも真っ暗けではないですか。ですよね。私が言いたいのは、CとDだとどうなのかということも含めて検討していただいたほうがいいのかなと思いました。 というのは、先生もすごく心配していらっしゃいましたけれども、近隣の住宅地における騒音となってきたら困るわけですよ。住宅地に行くわけですから。今までは周りに住宅は全くなくて、孤立したような形の杉並第一小学校でしたから、意外と音楽のことにしても、子どもの声にしても、「子どもの声が活発になっている」という話で通ったところが、子どもの声が騒音になりますので、そのときにどのような形になるかなと考えたときに、C、Dも一応検討していただいて、C、Dのほうが校庭に光は時間的には長く差していますので、そんなことも含めて提

	案していただくとありがたいなと思います。このA、Bだと、1時以降は真っ暗けですよ。
進行役	事務局から回答はありますか。
学校整備担当 課長	委員からご提案がございましたC、Dに関しまして、確かに日の当たり方に関してはAとBにないような日の当たり方をするというところはございます。ただ、その一方で、グラウンド面積、この比較表の7番を見ていただきますと、AとBが3,000平米取れるものに対しまして、CとDに関しましては2,300平米と2,500平米で、グラウンドが小さくなってしまうというデメリットもございます。そういった点も加味しながら、どの案がいいのかというのも検討が必要なのかなと思っているところでございます。
委員	だとしたら、いろいろなメリット、デメリットがあるわけですから、学校整備課長さんがおっしゃったように、ここで絞り込んでみたいなのは厳しい状況だなと思います。委員それぞれが検討して、どれが子どもたちにとって、すばらしい場所に移るわけではないのですからね。規制があるところに持っていくということに関しては、デメリットとメリットをきちんと把握しなくてはいけない。ある部分、もしかしたら我慢しなくちゃいけないことも出てくるかも分からないので。 だとしたらなおのこと、この設置に関してはもう少し時間をかけていただいて、委員もうちに持ち帰って、検討しながら次回に及ぶという形にさせていただいたほうがありがたいと思います。何か決め打ちみたいなのはちょっと違うのではないかと思いますので、そのところを検討いただけるとありがたいです。
学校整備課長	ありがとうございます。日影については、前回も日当たりが非常に重要だというご意見も頂きましたので、C、Dを含めて。あと、今回お示ししているのは、冬至の本当に日が一番陰るときです。それだけじゃなくて、例えば春分とか、秋分とか、ふだんのときがどうなのかとか、その辺りも含めてお示しできればなと思います。
委員	夏はとてとても校庭でなんか遊ばせんから、夏のことは結構ですけども、それこそ冬に向かってのことはちょっと検討していただけると大変助かります。日総建さんが来て、よく見えませんでしたでしょう。子どもたちは3時過ぎると、みんな猫と一緒に、日当たりのほうに集まって活動しているのですよ。そのことを考えたときに、できたら子どもたちが活動する時間に光が差すみたいなことがいいのかなと思いますので、どうぞ検討のほうをよろしく願いますことと、そんな早急に決めない

	で、建物もとても大事なことになるので、どこに建てるかということにもう少しお時間を頂くとありがたいと思います。お願いします。
進行役	ほかにございますか。 委員。
委員	よろしくお願いします。 子どもたちが活動するということに当たって、様々なものが必要になってくるとというのが現状かなと思っております。今、この校舎配置図を見ると、本当に校庭のトラックと倉庫しかないということになっています。子どもたちは各学年、学級菜園等を作って、野菜であったり、アサガオを置く場所であったり、そういったところも考えていきますし、例えば砂場1つとっても、低学年は図工の中で砂場を使った創作活動であったり、砂鉄を拾ったりという形もあると思います。 そういった細かいところはこの中で考えていくべきなのか、それともそれは後からこことこことここというふうに考えていくべきなのか。さきほど委員からありましたが、日当たりというのは非常に重要だと私も考えておりますので、子どもたちが楽しく、安全に、そして元気よくというところを大切にしながら議論が進んでいただけると非常にありがたいというのが1点です。 もう1点、運動会等でスピーカーで音を流すことがあります。そういったときに、例えば住宅側にスピーカーが向くのか、学校の校舎側に向くのか、両サイドから当てるのか、そういったところで実は大きな違いが出てくるのではないかと思っております。 先ほど委員からありましたように、今までは相沢の森であったり、道路に面していたというところだったので、そこまで気にせず、こちらもそういうお電話を頂くことはありませんでした。今回、住宅概要に書いてあるように、そういった部分を考える必要があります。近隣住民との関係性も、学校運営上、非常に必要な部分になると思いますので、そういったところのご配慮であったり、何かいい案があれば出していただければと思っております。 また、私は前任で高円寺学園に勤めておりました。人工芝にせよ、土にせよ、天然芝にせよ、それぞれメリット、デメリットがあるなと感じております。 ただ、高円寺学園で一番気になったのは、人工芝が夏はものすごい温度になっていく。簡単に言うと、裸足でそこに出ってしまったら、やけどをしてしまうということもゼロではないなというぐらいのレベルにな

	ります。 人工芝の方向で考えていくのであるならば、材質のいいものであったり、下に冷却装置というか、そういう熱を吸収するようなものとか、そういったことを配慮するのが今後の気候条件を考えた場合には非常に必要になるのではないかと考えております。 子どもたちが安全というところ、何度も言いますが、そこを考えてやれるようにしていただけるとありがたいなと考えております。 以上です。
進行役	委員、どうぞ。
委員	よろしくお願いします。 配置ということで見ているのですけれども、いろいろなことを考えなければいけないなと思っていて、僕はこの配置を見ていく中で、給食の調理場があるのですけれども、調理をするときは結構音が出ます。子どもの声より、意外に給食の音のほうが大きいときもあって、それをどこに持ってくるかというのもすごく大事で、病院側にしたほうが比較的影響が少ないのか、あるいはAとBだけ比べてみますと、右側に行くと住宅側に行きますので、そのときの音、給食は毎日必ず音が出ます。特に朝早い時間、6時半から7時ぐらいから作業をしていますので、その音の影響がどうなるかということを考えると、ほかに考えることはたくさんあるのですけれども、ちょっとそれが気になったので。 配置を決めてから中身というのもそうですけれども、中身をどこに置くのかによっても、実は配置というのは重要なところかなと思います。設計される方はいろいろ気にしなければいけないことがあると思うのですけれども、今パッと、昨日から見させていただいた中ではそこがすごく気になるポイントだったので、周りの方に音の影響をできるだけ及ぼさない形の音の出し方、音をどう防ぐかというのを検討していただきたいなと思います。 以上です。
進行役	学校もいろいろと聞かせていただきましたが、委員の皆様方からありませんか。 委員、どうぞ。
委員	先ほども吹き抜けのお話が委員から出たのですけれども、面積を何に使うかというところもそうだと思うのですが、安全上の話で、吹き抜けはすごい見ばえがよくて、吹き抜けがあるような家は私はすてきだなと思うのですけれども、子どもたちがいっぱいいるところで、杉並区内で

	も吹き抜けではなかったと思うのですが、多分窓か何かで塞いだところに乗かってしまって落ちたという事例が数年前あったり。私はふだん精神科の病院で働いていて、どうしてもこういうところから落ちたくなる人がたまにいらっしゃる場所で働いているので、そういった安全上で例えば、こうするから、この吹き抜けがあっても、他校さんで設計して作ったけれども、安全上問題ありませんということなのか、そこまで想定していませんということなのか、その辺も併せてスペースの問題と安全面も考慮していただけたらと思いました。 以上です。
進行役	ありがとうございました。言い足りない方、いらっしゃいませんか。委員、どうぞ。
委員	全くの素人で詳しいことはよく分からないのですが、今日たまたま杉一小学校の 150 周年のお祝いの会がありますというパンフレットを会の方が持ってきてくださって、「よろしく」と言われて、本当に 150 周年だなと。100 年のときもちょっと関わっていたのですが、長いこと生きてきて、新しい学校ができるのが楽しみだったのですが、私は日照のことは全然頭になくて、そういうことがあるのだなと思って、今ちょっとびっくりしているのです。 子どもたちの学校には日がさんさんと当たってほしいなということで、建物そのものはすばらしいのですけれども、なるべく日当たりの中で子どもたちが行動できるようにしていただきたいと思っております。それだけです。
進行役	ありがとうございました。 委員、どうぞ。
委員	前回、エレベーターが、音楽室が上にあることも含めて、音楽室に大きな楽器を運ぶということもあるし、それだけではなくて、大きめの楽器を上を運びたいということも、もしかしたら体育館でもあるのかもしれませんが、あり得るので、エレベーターの大きさを少し考えていただけたらという意見が出ましたけれども、ここではまだ詳細設計の前の段階だということで、特にそれについて前回を受けての考えを何かお持ちなのか、それとも、基本的には現状の人間が 10 人なのか 7～8 人なのか分かりませんが、普通サイズのエレベーターにしようという方向で今進んでいるのか、どちらですか。
学校整備担当 課長	通常ですと、11 人乗りのエレベーターをつけることが区の施設では多いのですけれども、そういった学校の特性等もございますので、大き

	さにつきましては実施設計を進める中で、ご意見もきちんと伺いながら選定をしていきたいと考えてございます。
進行役	よろしいでしょうか。
委員	なかなかこれがいいと言いつらいところはあるのですが、子どもたちの意見としては、現状のアンケートの結果を見ると、校庭が狭いという話で苦勞しているのが結果として出ていたので、親としてはそこが広くなればいいなと思います。 一方、日当たりの話も非常に重要なので、その辺りの比較考量ということになると思うのですが、何がメリットで何がデメリットというのはある程度ははっきりしていると思うのですが、どこを取っていくのかというのは割と判断事項のような気がしていて、どちらのほうが一概にいいということではないと思いますので、その辺りは判断のかなと思いました。 親としては、子どもは広い校庭を望んでいますというコメントで留めておきたいと思います。よろしくお願いします。
進行役	ありがとうございました。 委員、どうぞ。
委員	学校だけの日当たりを考えていますけれども、周辺の方たちの日当たりも十分考えないといけないかなと思って、その辺は大丈夫なのでしょうか。
学校整備担当 課長	当然、子どもファーストといいましょうか、我々としても望むところですが、学校自体が公共施設の一部ということもございまして、近隣に与える影響も少なからずしっかりと検証していかなければいけないということもございまして。今日いろいろな意見を頂きましたし、これから配置案を決めていく中で、皆さんと一緒に考えていければと思ってございます。
進行役	よろしいでしょうか。 では、配置について委員の皆様方からご質問、ご意見を頂きました。校舎の配置について、これまで委員の意見であったり、願い事がありましたね。それらを踏まえて、この後、委員からお話を頂戴できればと思います。 委員からお願いいたします。
委員	いろいろお話を伺っておりまして、なかなか難しい話だと実感しておりますけれども、やはり全てが満足するというのは難しい状況ですが、選考でも少しでも広い校庭を、ということを第一にした決定が現在の案

	であろうかと思います。 また、今日、日影の話がかなり議論されましたけれども、ここに出て いるのは真冬の冬至の昼間の時間ということで、C案、D案ですと南北 に長い校舎になり、当然、朝方と夕方、非常に長い影が出ることになり ます。周辺に対して影響を及ぼす範囲が大きくなると考えたときに、こ のA案、B案のほうがいいのではないかとということで案が出てきている のではないかなと思います。 あと、高低差もございます。どちらかというと、僕は建物のほうが高 いところにあったほうがよいと考えます。ですのでAのほうがいいのか なと思いますが、別に決まったわけではないので、議論していくという ことでよろしいのではないかなと思いました。
進行役	委員、ありがとうございました。 委員、お願いいたします。
委員	前回、やむを得ず欠席しまして、申し訳ございませんでした。いろい ろ申し上げたいことがあるのですけれども、まず、先ほど杉一が150周 年ということで、前の懇談会のときに、戦後だけではなくて、もう少し 振り返って見たらどうですかと申し上げたのですけれども、それと真逆 の話になってしまうのですが、C案、D案の配置は大昔の杉一小学校的 なのです。 ちょっと話の順番を変えます。すみません。 ここに4案出てきていますけれども、実際の設計者としたら、もっと もっとたくさん検討しているのですね。こういうプロセスをたどる以 上、4つの案ぐらいに絞って出さないと話が進まないの、ここで100 案出してもということで、4つ出ているのだと思います。ですから、設 計者はもっともっと検討している。 その中で、AタイプとBタイプとCタイプとDタイプの中で、今考え られる範囲で一番いいと思うのがA、Bと出ているのだと思います。 そういう前提で話を申し上げますけれども、最初に、C案、D案もあ ったので、それも検討すべきだという話もありました。それは当然だと思 います。 懇談会の最初から、今の場所は校庭が狭いから広くしたいという非常 に強い要望があつて、さらにこれが出てきて、今、区側の説明でも、C 案とD案は校庭が小さいから除外ですねという感じの誘導的な発言も ありましたけれども、私は、校庭も大事だけれども、学校そのものがど ういうものができるか。そこで長いこと、放課後に生徒さんが遊ぶのは

大切だけれども、学校の校舎の中でどういう生活をして、どういう勉強をするかというのはすごく重要なわけです。

そのときに、このC案とD案を設計者で案として作ってくださったのだけれども、非常に古い形の校舎の配置なのです。左側のA案、B案は非常にコンパクトになっていて、現代的な作り方なのです。

学校の運営から考えても、C案、D案の普通教室が一番遠くにあってという形のときに、校長先生の目が届くとかいうことを考えると、そういう意味で、私は今の時代、C案、D案ではないと思います。

詳細にここの中のプランを、どういうふうに特別教室を配置するかというのはあまり設計者は検討されていないのではないかと思いますので、けれども、もともとこれでは無理だなという感じで検討していないのではないかと私は想像します。

なので、ここから先、詰めるのであれば、C案、D案は、皆さんの関心からして、校庭が狭いけれども、委員が言われたように、別の意味でほかへの日影の影響とかを考えても、C案、D案的なものはこの敷地ではかなり無理だなという結論でいいのではないかなと、私は思います。

A案とB案が残るわけですがけれども、これも皆さん、日当たりのことに非常に関心を持っていらっしゃるって、日本の特に表日本、東京の気候の中では、日当たりがいいかどうかというのはすごくメリットと言えるので、いいことだと思うのですがけれども、全然議論には出ませんでした。資料4を見ていただくと、A案の建物の中の教室の配置とB案を見ると、B案のほうは南側に普通教室をずらっと並べている。

これは、50年前だとA案は考えられなくて、B案みたいな日当たりのいい普通教室を並べましょうねという形になるのです。だけれども、今の学校建築の設計の考え方と、先ほど空気が自然に流れるというお話もありましたけれども、建物全体で、昔は普通教室の奥に部屋があるなんて考えられなくて、風通しのために南に向けてさっと流れるという学校で今まではできていたわけですね。そういう意味からすると、そういうことを言うと、日当たりだったらB案のほうがいいかなという感じにもなると思うのですがけれども、現在の作り方からすると、そのことはB案のプラスにはならないという感じかと思います。

全体敷地のことで、これも最初の懇談会から水が出る危険性がある場所だということからすると、あまり教室をその近いところに持っていくたくないなというのは当然の判断だと思います。

それから、吹き抜けに関しては、確かに子どもたちは何をするか分か

	らないですから、完全に安全な、落下もしくは故意の落下がないような形に絶対しなくてはいけないと思います。一方で、さっきちょっと設計者が説明された、最近、最新鋭のオフィスビルでこういう吹き抜けを造ることがすごく増えているのです。それは会社の運営の中で、フロアが異なると、その間の社員の意思疎通が全くなくなるというのが今までの考え方だったのですけれども、これからの会社経営からすると、吹き抜けを造っただけで上下階の人間の意思疎通がぐっと増えるということで、そういうオフィスがすごく増えています。 そういうことからいっても、子どもたちの学年を越えた交流とかに関してはかなり有効だと思います。建築設計者として、吹き抜けを造ったほうが格好いいからという気持ちもあるかもしれませんが、時代の方角としてはそういうことだと思います。 ただ、この吹き抜けの今の取り方の格好がいいかどうかは私は分かりません。もっともっと練っていただいて、委員が言われたように、これだと、一番右の普通教室の前はオープンスペースがないなという感じになって、教室間での不公平感が出るのはすごくよくないですから、そういうことも考えてやっていただいたほうがいいなと。これを見た私の感想としてはそういう感じを持っています。 あと、私はプロポーザルのときの審査員をさせていただいて、この案の中のいいなと思った点は、入り口から入ったときの学校の見え方、これは前の懇談会でも私も申し上げていたと思いますけれども、これが杉一の学校だと卒業生が思ってくれるような形にするとすると、この正門の上に多目的教室が出っ張っていて、そのところを魅力的にしようという計画だなということまでは読み取れるのですけれども、もっともっと魅力的にさせていただいたほうがいいかなと思います。 もう1点、あまりにもいろいろなことを考えていたので、今言わなくてもいいですけれども、今後もこういう形で、機会があれば申し上げます。思い出したらまたしゃべらせていただきます。以上です。
進行役	またお声かけください。 それでは、委員、ありがとうございました。 本日は大変貴重なご意見を頂きました。校舎配置につきまして、何か学校整備課からございますか。
教育施設計画 推進担当係長	そうしましたら、今回、まだもう少しいろいろな資料が見たいというご意見がございましたので、事務局でまた設計のほうと協力しまして、

	ちょうどこのA4判の資料の表にまとめている内容をもう少し増やして、日影についても増やして、それをまた皆さんに見ていただいて、その上でご意見を頂いて、それから校舎配置をある程度固めて中の議論を進めていけるように調整をしたいと思っております。それで行かせていただきたいと存じます。 この後、実際に今どういう部屋の配置を検討しているかということを目録様にご紹介いただいて、実際にこういう部屋はこういうところに設けたほうがいいのかとかいうご意見が頂ければと思っていたのです。ただ、それも次回以降となりますので、今日はこの後、少し今回の平面図の見方だけご説明をさせていただきまして、その上でまた次回に持ち越しという形で調整をさせていただければと存じます。 そういうことで、校舎の配置につきましては一旦ここで区切らせていただければと存じます。よろしくお願いいたします。
進行役	それでは、目録様から、次第の3にあります「校内構成と諸室について」の説明ということですね。ご説明をお願いいたします。
委員	すみません。思い出しました。
進行役	ご準備いただいている間に、委員、どうぞ。
委員	さっき、昔は日照と通風が学校建築の基本だということで、建築学会でも戦後すぐはその2つの研究がすごく多かったのです。それから、窓の大きさも建築基準法で非常にたっぷり取らなければいけないというルールだったのですけれども、学校のつくり方が変わってきたので、窓の面積に関しても、もう少し少なくていいよと法律さえ変わっている状況です。 ただ、そういうことの方角に来て、こういう団子みたいな校舎が出てくるということに関して、建物の性能を上げないとそのよさが出てこないのです。今、住宅に関してはこの4月から法律も変わって、省エネルギー対策みたいなことが非常に強化されるのです。それに対して、学校に関してはそういう上からの規制はないのですけれども、これは委員のご専門ですけれども、例えば断熱をすごくしっかりとるか、パッシブと言いますが、そんなにエネルギーにお金をかけなくても、温熱的に非常にいい環境の学校にすることがすごく求められていると思うのです。 ですので、この配置で日当たり、日照という議論がたくさん出ましたが、それ以上に、そういうことがなくても非常に快適な学校を造っていただくということがこれからの時代、ものすごく大切だと思うの

	です。お金もかかることなので、杉並区で用意していただかなければならないですけれども、ぜひともそういう性能レベルを上げた学校にしたい。こういうコンパクトな学校をつくっていただきたい。それを申し上げたいと思ったのです。
進行役	委員、ありがとうございました。 それでは、事務局からお願いいたします。
日総建	委員、ありがとうございました。 図の見方だけ、せっかくこの場に時間があるので、少し説明させていただきたいのですけれども、A案でまず説明します。 もう少し中身の話をしてしますと、例えば普通教室が1部屋あるのですけれども、これは大体8メートル角ぐらいで64平米、今の杉並第一小学校は幅が7メートルの9メートルの63平米ですけれども、最近の学校の標準的なサイズでこま取りをしています。それはAもBも一緒です。 例えば特別教室がありますけれども、杉並区さんは64平米の2こまぐらいが標準で、図工ですとか、特殊なものがついているところは若干多いというのはあるのですけれども、そういった標準的な面積。 それから、学童は今回400平米で、プロポーザルのときは杉並区の標準でやってくれというお話だったのですけれども、今回改めて杉並区さんのほうでもう一回見直してもらって、取り込んで再セットするつもりですけれども、それを見ると学童のほうは今400平米ぐらいです。1階のこちらにあります。 給食はこのエリアです。大体300平米ないぐらいですけれども。1階は昇降口を入ったところに職員室をはじめ、校務さんのお部屋や、学校開放諸室等を置きますけれども、必要な校務センターを集めている構成になっています。 体育館の大きさは、基本、杉二小と同じに設定してまして、杉二小についている防災関係のお部屋を一式こちらにつけてございます。 屋上のプールについても、杉並区の標準的なプールサイズということで設定しております。 それから、校庭に行きますと、トラックは100メートルトラックで描いてまして、直線のところはこの内々で50メートルという設定にしています。今の杉並第一小学校が80メートルと聞いていますけれども、3,000平米ぐらいの敷地の校庭の中で、大体これぐらいの大きさが取れるということですね。 ざっと基本的小部屋のパーツというのは、そういったところです。

	以上です。
進行役	では、委員から質問を受けてもよろしいですか。 では、委員の皆様、今説明がありました。 委員からどうぞ。
委員	前回、西側のところに地域のふれあいだか、にぎわいの何とかというのがありましたよね。地域の方が集えるような。
日総建	まちかど広場ですか。
委員	まちかど広場というのは、この設計図には反映されていることなのですか。
日総建	はい。A案では場所を取ってあります。プロポーザルの提案がベースになっていますので。
委員	そこと学校の安全面のことを守るということはどう考えたらいいのでしょうか。それはオープンになるわけですよね。
日総建	校門の設置位置次第と思っていまして、今は取りあえず真ん中ですが、場所の設定は割と自由になるので、ここの使い勝手を……。
委員	きちんと門は造るのですね。
日総建	造ろうと思ったら造れるので、一応真ん中に今設定しているのですが、使い勝手をいろいろお聞かせいただいてから、ここの場所の設計をしようと思っています。最近、防犯カメラも大分進んでいますので、そういった部分も含めて。
委員	防犯カメラが進んでいても、緊急対策にはできないではないですか。そうではなくて、こうやってオープンになっているので、いろいろな方が出入りできるというメリットもあれば、それは今の状況からすると危険なことも伴うので、そこのところの確認をしたかったので質問いたしました。分かりました。
日総建	ラインの設定は割と自由にできます。
委員	自由っていうのはとても怖い言葉だなと。分かりました。そのときにまたお話しさせていただければよろしいですね。
日総建	ありがとうございます。
進行役	ほか、ご質問はございませんか。 委員。
委員	体育館にトイレがないのですけれども、僕は災害のときの体育館利用の研究もしているので、そのときの利用はどう設定されているのか教えてください。
日総建	2階で体育館のフロアレベルが連続しているので、このフロアのお手

	洗いを災害時に使えるようにしようかと思っていたのですが。レ ジリエンストイレとか、最近いろいろあるのですが。
委員	この真ん中にある紫色のところを体育館の人も使うと。
日総建	はい。
委員	なるべく分けたほうがよいと思います。運用上、避難者と学校運営は 分かれてしまうので、学校の中を避難者がうろうろするような事は割け た方がよいと思います。
日総建	分かりました。
進行役	ほかにごいませんか。 委員。
委員	プールが屋上ですよ。これは桃二でしたか。どこでしたか。あの見 学したところ。
教育施設計画 推進担当係長	桃二小と杉並第二小学校です。
委員	ですよ。屋上にありまして、きれいだったのですが、変な言 い方で申し訳ないのですが、埼玉県八潮市の配管が、50 年もつ ものが壊れてああいう事故になりましたけれども、プールが屋上でコン クリート固めをされるのか、ちょっと私、素人だから分かりませんけれ ども、屋上にあるよりも真下の地下に持っていくとか、そんなような検 討はないものではないのでしょうか。先ほど来も病院側からの目隠しが云々より も、一番目隠しになるのではないかなと。 それから、防災時に水だめをしておけば消火の一部にもなるでしょ うし、いわゆるてっぺんに持っていくよりも、そんなことを考えるご提案 があるかどうか、というのを考えてみたものですから、お伺いしたいな ということでございます。 以上です。
学校整備課長	ありがとうございます。プールは、屋内に持ってくる場合は温水にす ればよいのですが、日照がないと、どうしても夏でも水道をため るだけになってしまうので、なかなか温度が上がり切らないというのが 現実かなと思うのです。それから、屋上に持っていく場合でも、屋内の プールの場合でも、定期的に防水のやり替えはしますので、そういった 維持メンテをしっかりとやっていくという形になろうかと思います。
進行役	ほかにご意見、ご質問はございませんか。 委員。
委員	これから居室内ということで、居室は結構あるので、詳しいのが出て

	からと思ったのですが、最初の前提の中で、杉一の特徴としてこれは絶対入れておいていただいたほうがいいかなというのがありまして、音楽室と体育館は同じフロアがいいかなと考えています。 なぜかという、杉一小はジュニアバンドをやっている、ジュニアバンドの演奏は体育館で行うことがたくさんあるので、楽器は結構重たいので、フラットで移動できるように、今、保護者の方がすごいご苦労をされて、エレベーターがないので、力自慢の方が委員をはじめいらっしゃるって、本当にご苦労されているので、やっぱりこの音楽室と体育館はフラットにさせていただきたいなということが1つ。 もう1つ、僕は給食担当ではないのですが、調理場のところがどうしても気になっています。給食の配膳をエレベーターで運ぶのですが、例えばA案でしたら、エレベーターの位置と給食の調理場の位置がかなり離れていますので、もし給食調理場用の専用エレベーターがあるのであれば別ですが、ないようであれば、ここは配膳台を運ぶ際に結構渋滞するのです。今のA案ですと、エレベーターの前に給食の配膳台が大量に置かれているという状況が想定されますので、エレベーターの位置はすごく大切かなと思っています。 エレベーターを誰が使うのか、どういう場合に使うかというのは本当に考えた上で設計しないと、作ったはいいいけれども、不便なエレベーターにしかならないということもあります。その辺、もし可能であれば、エレベーターは何か運ぶ用と人が乗れるようなもの、例えば足の不自由な方が車椅子でいらっしゃる時に乗れる用と給食を運ぶ用と分けていただくといいかなというところが気になりました。学校現場からの意見としたら、そこのところはちょっと考えていただきたい、お願いしたいなというところです。 以上です。
進行役	お願い事でした。 ほか、よろしいですか。 委員、どうぞ。
委員	教室とかの配置ではないのですが、先ほど委員も言われたように、グラウンドのところ、菜園だとか、砂場だとか、震災救援所の炊き出しができる場所とか、それもどこかの段階で検討して、俎上に上げていただければと思います。 以上です。
進行役	ありがとうございました。

	委員。
委員	単純な質問ですけれども、校舎と校庭に四角で 1.4 メートルと書いてあるのですけれども、実際の幅というか、校庭と職員室の間は何メートルぐらいと想定していますか。すぐ校庭になってしまっているのか、50 メートルのラインに行くまでの縦の辺りで、職員室から 50 メートルのラインぐらいまでの間はパッと行けるところなのか、多少幅があるのか。 例えば校舎側を運動会の本部にしたときに、テントがそこに置けるのか、置けないのか、ここの幅は結構重要なところなのかなと。
日総建	今気にされているのはここですね。一応 50 メートルのトラックと 100 メートルのトラックがあるので、このトラックの幅と同じぐらいは壁面から取れているので、その辺は本部が来そうかなと思って、ちょっと空けて設計してあります。
委員	日総建さんにお聞きしたいのですけれども、この A 案の教室の配置等というのは、プロポーザルに出したときからあまり変わっていないですよ。
日総建	そのままです。
委員	そのままですよ。そこが言いたいのですけれども、すばらしい建物を建てていただいても、この間視察に見えたように、特色ある教育で杉一は頑張っているのです。そういうことが全然反映されていないと私は思っています。建物ばかりすばらしい近代的なものを建ててもらっても、結局、目的は子どもの学びですから、その学びにふさわしい校舎でないと私はいけないと思うのです。 そうすると、吹き抜けがあったり、フリースペースがいっぱいあることが果たして今の子どもの教育にふさわしいかどうかということもありますので、ぜひとも教育者と話をしていただいて、建築者の方たちは建築のほうからいろいろなご提案をされるかも分かりませんが、教育をするというところに関してはそれを見ていただかないと、どんなにすばらしい近代的な校舎になろうと、子どもたちがとても使いにくいとか、先生方が教育をしにくいのでは何の意味もありませんので、ぜひともそのところをお考えいただいて、こればプロポーザルのときと全く変わっていないということを今お聞きしたので、なおのこと、見学なされたわけですから、ふさわしいご提案をしていただくとありがたいなと思います。 以上です。

日総建	ありがとうございます。
進行役	皆さんのお声を聞かせていただきました。 ほかにございますか。よろしいでしょうか。 では、委員の皆様、ありがとうございました。続きはまた、第7回の懇談会にお願いしたいと思います。 事務局の皆様は、いろいろな要望等ありましたので、まとめていくのは大変かと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。 では、事務局からのお知らせをお願いします。
教育施設計画 推進担当係長	それでは最後に、事務局からお知らせいたします。 最後になりますが、次回の第7回の懇談会の日程についてお知らせをさせていただきたいと思います。 年度初めになりますので、誠に恐縮なのですが、4月21日午後2時から2時間ほどという形で開催をさせていただきたいと存じます。会場につきましてはまだ決まっておりませんので、また後日改めてご案内をさせていただきたいと存じます。 事務局からは以上となります。よろしくお願いいたします。
進行役	では、閉会の言葉を学校整備・支援担当部長より申し上げます。
学校整備・支援 担当部長	いつもお世話になっております。本日はありがとうございました。 今回の会議で思ったことを素直に申し上げると、我々の中で議論をして、今日いろいろ資料を出させていただいたつもりですが、まだまだ不十分な点があるなとつくづく感じました。正直言うと、何となくこういう方向で行くのかというところが我々事務局の中で少しあったようなところもあるのかなと思って、もう一度原点に帰って、少し整理したいと思っております。 何かを排除ということではなくて、議論を尽くした中で、「やっぱりこれがいいんだ」ということを皆さんが納得してもらうことが今後大切だと考えております。次回4月ということで、少しお時間が空きますので、その間にしっかり資料の整理もさせていただいて、本日ご指摘いただいた点、それから、様々なサジェスションで勉強になることがありましたので、そういったところを生かしたものでもう一度議論をさせていただいて、今後進めていければと思いますので、本日は本当に貴重なご意見を頂きまして、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。
進行役	皆様、ありがとうございました。これにて閉会といたします。 お疲れさまでございました。